

訳者紹介

中村 浩爾（なかむら こうじ） まえがき, マンフレッド・リーデルによる序論, 第I部第1章・第2章, 第3章第3節

大阪経済法科大学名誉教授, 京都大学博士 (法学)

専門分野: 法哲学, 法思想史

主要業績: 『民主主義の深化と市民社会——現代日本社会の民主主義的考察』(文理閣, 2005年), 『現代民主主義と多数決原理——思想としての民主主義のために』(法律文化社, 1992年), ディーター・ヘンリッヒ編『ヘーゲル法哲学講義録1819/20』(法律文化社, 2002年, 共訳), V・ベシュカ『現代法哲学の基本問題』(法律文化社, 1981年, 共訳) など

三成 賢次（みつなり けんじ） 補遺1・2, 編者あとがき, 訳者解説

大阪大学大学院法学研究科教授, 大阪大学博士 (法学)

専門分野: 西洋法史

主要業績: 『法・地域・都市—近代ドイツ地方自治の歴史的展開』(敬文堂, 1997年), 『地方分権改革』(法律文化社, 2000年, 共著), 『法制史入門』(ナカニシヤ出版, 1996年, 共著) など

三成 美保（みつなり みほ） 第II部

摂南大学法学部教授, 大阪大学博士 (法学)

専門分野: 西洋法史, ジェンダー法学

主要業績: 『ジェンダーの法史学—近代ドイツの家族とセクシュアリティ』(勁草書房, 2005年), 『ジェンダーの比較法史学—近代法秩序の再検討』(大阪大学出版会, 2006年, 編著), 『国民国家と家族・個人』(早稲田大学出版部, 2005年, 共編者) など

田中 幸世（たなか さちよ） 第I部第3章第1節・第2節, 索引

大阪経済法科大学アジア研究所客員研究員／劇作・演出家

専門分野: 文化論, 文化経済学

主要業績: 「ヘーゲルにおける家族と普遍的家族について——第三の家族の可能性」『法の科学』34号 (2004年), ロバート・R・ウィリアムズ編『リベラリズムとコミュニタリアニズムを超えて——ヘーゲル法哲学の研究』(文理閣, 2006年, 共訳), 「文化権についての一考察——文化権の確立のために」『法の科学』39号 (2008年) など

の場 かおり（まとば かおり） 序: 自然法の歴史, 補遺3

名古屋短期大学現代教養学科専任講師, 大阪大学博士 (法学)

専門分野: 西洋法史

主要業績: 「近代ドイツにおけるプレスの自由とその展開 (上) (下)」阪大法学56巻1号と2号 (2006年), 「三月革命後のプロイセン国家参議院——1850年代の国家参議院の復興をめぐって」阪大法学52巻2号 (2002年), 「三級選挙法と七月選挙」阪大法学51巻3号 (2001年), 「近代プロイセンの議会と選挙制度——三級選挙法の制定過程をめぐって」阪大法学50巻5号 (2001年) など

編者紹介

マンフレッド・リーデル (Manfred Riedel)

1936年, 旧東ドイツのザクセン・アンハルトで生まれ, ライプツィヒ大学で哲学とゲルマニスティクを学ぶ。1957年に旧西ドイツに逃れ, ハイデルベルク大学でカール・レーヴィットやハンス・ゲオルク・ガダマーなどの指導を受ける。ドイツやアメリカ, そしてイタリアなどの大学で教鞭をとった後, 1992年以降, ハレ・ヴィッテンベルク大学で実践哲学講座の教授をつとめ, 2004年に定年退官し, 現在にいたる (ハレ・ヴィッテンベルク大学名誉教授)。

主著としては, Theorie und Praxis im Denken Hegels. 1. Auflage Stuttgart/Berlin/Köln/Mainz 1965; 2. Auflage: Berlin 1976, Zwischen Tradition und Revolution. Studien zu Hegels Rechtsphilosophie, 1. Auflage 1969; 3. (erweiterte) Auflage 1982, Norm und Werturteil. Grundprobleme der Ethik. Stuttgart 1979などがあり, また, 邦訳として, 清水正徳・山本道雄訳『ヘーゲル法哲学——その成立と構造』(福村出版, 1976年), 宮内陽子訳『規範と価値判断——倫理学の根本問題』(御茶の水書房, 1983年), 池田貞夫・平野英一訳『ヘーゲルにおける市民社会と国家』(未来社, 1985年), 高柳良治訳『体系と歴史——ヘーゲル哲学の歴史的位罫』(御茶の水書房, 1986年) などが公刊されている。